

小規模多機能型居宅介護事業所 牧島荘 運営推進会議議事録

1. 開催日時 令和3年4月20日(火)10:00～11:00

2. 開催場所 介護老人福祉施設 牧島荘 中庭
長崎市牧島町9番1号

3. 出席者運営推進委員 社会福祉法人 喜老会 理事長 豊福美佐子様
鎮西学院大学 社会福祉学科長 岩永秀徳様
牧島町老人会副会長 牧島敬子様
民生委員 長野康子様
東総合事務所職員 川崎マサ子様
坂口みさと様
ご利用者代表

4. 事業所構成員 理事長兼小規模管理者 栗林裕子
施設長 前川恒子
施設課長 浦岩真知子
小規模看護主任 前田都子
小規模介護職員 榑佐津子

5. 議題 (1)活動報告
(2)利用者状況
(3)ヒヤリハット・事故報告

配布資料 ①利用状況内訳②ヒヤリハット・事故報告内訳(令和3年1月～3月)
③お迎え時の感染対策受付書 計3部

職員 榑 議題1. 活動報告をスクリーンを基に説明

推進委員 長野様 素晴らしい報告でした。色々な行事、日常の様子が目に浮かび楽しそうな様子を伺うことができました。

職員 前田 議題2. 資料②を基に説明

推進委員 豊福様 特養と同じで介護3以上が利用条件と思ってましたが、要支援も利用できるんですね。

職員 前田 利用可能です。要支援の方は自宅のごみの処理や買い物等、訪問と通いを中心に利用いただいています。

推進委員 長野様 コロナ感染対策等で通いの利用の制限や自粛により、自宅で過ごす時間が長くなると行くのがおっくうになった等聞くことができました。そういった方の身体状況は大丈夫だったのでしょうか。

職員 前田 やはり少し元気がないような感じが伺えました。訪問で体調管理を行っていかうと考えておりましたが、ご家族が高齢のお母様の外部接触をできる限り減らしたいとの思いもあり、頭の体操プリントをお届けしたり電話で様子を伺ったりしておりました。今後も県外接触等がある場合は2週間のお休み、また状況に合わせて法人全体で感染ミーティングを行い対応してまいります。

職員 前田 議題3. 資料③を基に説明

推進委員 牧島様 送迎ミスとはどんなミスですか。職員が利用者と関わる際のヒヤリハットはどの様なもので、どう対応したのか教えてください。

職員 前田 まず送迎ミスについて説明いたします。送迎スケジュールを一週間ごとに作り毎朝確認をして朝のお迎えに出発します。今回の送迎ミスはお昼からご利用される方のお迎えを忘れてしまいました。ご家族から迎えが来ないと連絡をいただき慌てて出発したという内容でした。その後対策を講じ同じミスは起こっておりません。次にヒヤリについてです。歩行介助中のふらつきと、通常付き添い歩行の方が夜間、居室ドアまで出てこられてヒヤッとしたこと。訪問の際にタッパをトースターで温めていたり、冷蔵庫から生肉を食べていた等がありました。歩行時の支え方などの情報共有や、夜間センサーや見守り支援システムの利用、訪問ではご家族とともに対策を考えたりと都度対応しています。

職員 栗林 ヒヤリ、事故については皆様からのご助言をいただき対策を講じ減らすことができました。小多機になってご利用者の生活全般に関わらせていただくことで、状態や習慣をしっかりと把握することができたことが大きな要因だったと考えております。

推進委員 川崎様 「お部屋を出てくるときは呼んでくださいね」とお伝えしてもなかなか

難しいことがあると思いますが、認知症の方の対応はどのようにされているんですか。

職員 前川 ドアのところまで安全に移動ができるよう、テーブルや棚を配置して同線を作ることを職員がしっかりやっています。部屋の配置もその方に合わせた対応をしています。

推進委員 豊福様 生肉の件はたまたま訪問に行ったときに見つただけ、どこまでを管理するのか、そこまで事故ととらえたら大変ですね。

職員 前田 そうならない為に支援方法を考え、ご家族に提案し一緒に考え取り組んでいます。今回もご家族と一緒に対策を講じその後同じことは起こっておりません。

推進委員 豊福様 送迎ミスは事故になるんですか。

職員 栗林 ご家族から連絡があり気が付いたというのは事故です。すっかり忘れていたということですから。少し時間を過ぎてハット気が付けばヒヤリハットです。そこを積み上げ皆で共有し意識していくことで同じことを繰り返さず、また事故を未然に防ぐようにしています。

推進委員 豊福様 送迎の時間は守れていますか。

職員 前田 必ず携帯電話を持参し遅れそうときは連絡を入れるようにしています。

推進委員 岩永様 変わりましたね。かなり動いていらっしゃるね。学びを次に活かしている。ヒヤリについては職員の方方向にならないように利用者、家族がどう思っているかを考えていってください。事故の3か月ごとの統計で是非目標0に取り組んでみてください。転倒は骨折につながるので気を付けて頑張っていってください。訪問販売のパン屋さんなどをきっかけに来荘してもらおう。中を見てもらおう。施設を見てもらうことが1番ですからね。地域とどうつながっていくか模索しながら頑張っていってください。

推進委員 長野様 明日も高齢者サロン唯の浜の遠足に車を出していただく予定です。サ

ロンの立ち上げから地域への支援をしていただいています。それだけでなく月1回のサロン活動でも体操やためになる話をさせていただき助かっています。牧島荘と連携できたことで20年やってこれたと思っています。サロンの皆さんもまだまだ元気ですが、牧島荘を利用できるという安心感があります。明日の遠足も楽しめます。

推進委員 牧島様 職員は忙しいと思います。営繕や衣類の繕いまでは手が回らないはず
です。外部の方に手伝いボランティアでもらうシステム、取り組み
を作っていく。外部の人が中に入ることによって建物全体に目が行き届き、入
所者を具体的に知ってもらう機会にもなります。

推進委員 岩永様 施設について一般の方々には助けを求める場所と認識しています。本当
は地域の財産なんです。ただの建物にならないよう地域活性化の機会
になるように発想の転換が必要です。牧島荘ならできますよ。頑張
ってください。

職 員 栗 林 本日はたくさんの貴重なご意見、温かいお言葉をいただき本当にあり
がとうございました。